

7校一緒に被災校支援「にじの風プラン」

統合前に瀬戸市の小中学校、マーク収集

愛知県瀬戸市で2020年に統合される7つの学校(祖母懐小・東明小・古瀬戸小・深川小・道泉小・祖東中・本山中)が一体となってベルマークを集め、東日本大震災の被災地校に希望の品を贈る計画を進めています。題して「にじの風プラン・7校の力をひとつに!」。きっかけとなったのは、地元FM局のパーソナリティーの



活動でした。名古屋から北東に約20キロにある瀬戸市。「瀬戸焼」の名で知られた古からの陶磁器の産地で、窯を持ち作陶の授業

がある学校もあります。

統合は少子化による児童生徒数の減少が理由。来年4月に市立の小中一貫校「にじの丘学園」が新発足します。その学校名の一部を取った「にじの風プラン」が始動したのは昨春でした。

提案者は祖東中の生徒に本の読み聞かせ活動をしている伊藤由美さん。親子3代にわたる同校卒業生です。7校の中にはベルマーク運動の未参加校や活動休止中の学校もありましたが、打診したところ、みな賛成してくれました。

7校の各教室や職員室、学区内の公民館に回収箱を置き、集まったマークは祖東中に集約。校長室でボランティアが仕分け・集計しました。毎月7日を「にじの



左から早川寿校長 伊藤由美さん 古館満根教頭 高橋智子さん

風Day」として啓発活動もしました。地域の高齢者が、集めたマークを近所の子に託して届けてくれたこともあり、伊藤さんは「地域の人が気軽に学校とつながることができました」と話します。



この活動を伊藤さんが思いついたきっかけは、街で東日本大震災支援のベルマーク回収箱を偶然発見したことでし

た。それが、瀬戸市のコミュニティFM「ラジオサンキュー」でパーソナリティーを務める高橋智子(ちえこ)さんが2013年から始めた活動、「ちー姉のベルマーク大作戦」でした。

高橋さんは、番組でベルマークを集めるよう呼びかけています。仕分けと集計はリスナーのラジオネーム「山田2号」さんが担当。集まったマークは、瀬戸市職員が現地に出向した縁で、宮城県東松島市の市立矢本東小に寄贈しています。高橋さんは過去6回現地を訪問し、合計7万点以上を手渡してきました。「マークを集めることが大きな力になることを、矢本東小の子どもたちも感じていると思います」と高橋さん。



7校共同の「にじの風プラン」も寄贈先を矢本東小とし、集めたマークで同校が希望する品を購入することにしました。今年度の1学期分でマークの集計を終えましたが、その合計は9万点超。年度内には贈呈する予定です。

祖東中の早川寿校長は、この活動で人と人のつながりが新たに生まれたことを感じたそうです。仕分け・集計にも参加した古館満根教頭は「絆や地域の力に希望を持っています」と話します。

「ちー姉のベルマーク大作戦」は毎週木曜午後の放送で、ベルマークの情報を発信しています。もちろん「にじの風プラン」についても。取材日は高橋さんもスタッフと祖東中を訪れ、校長・教頭や伊藤さんにインタビューしました。



長野でへき地教育研究大会

山村留学生在が過半数の北相木小を見学

第68回全国へき地教育研究大会(文部科学省、長野県教育委員会、全国へき地教育研究連盟など主催)が10月10、11の両日、長野県で開かれ、全国のへき地校や複式学級がある学校、小規模校の教師ら1000人余が参加しました。10日は上田市で全体会があり、アトラクションとして市立西内小学校の金管バンドが演奏しました。



11日は県内10会場で公開授業。その中で、群馬県境に位置する北相木村の村立北相木小学校(大日方良彰校長)を訪れました。この村は標高約1000m、面積の91%は山林です。人口は約750人。児童数確保や村の活性化を図る目的で1987年から始めた山村留学事業が目目されています。

当初は全校児童数66人、うち山村留學生は6人でした。都会からの移住を受け入れる「1ターン」にも力を入れ、2001年には児童数が82人に。しかし、その後は留學生確保の難しさなどから、2010年には児童数は27人にまで減ってしまいました。

そこから取り組んだのが今の事業です。連携していた民間団体が撤退したため村直営に切り替え、別の村で山村留学に携わっていた指導員を迎え入れました。また、2011年度から民間学習塾「花まる学習会」(本部・さいたま市)と提携し、思考力や自己肯定感の向上をめざす特

色のある授業を取り入れたことで、留学希望者は大幅に増えたそうです。さらに2015年度からは1・2年生を対象に親と一緒に公営住宅に移り住む「親子留学」もスタートさせました。

その結果、今年度の児童数61人のうち、山村留學生は32人と半数以上に。首都圏だけでなく、関西や遠くは沖縄からの留學生もいるそうです。ゲームもテレビもない山村留学センターで共同生活を送る留學生が19人、親子留学が13人。地元の児童もIターン家庭が多くを占めているそうです。

この日の1校時は、同校が取り入れた「モジュール学習」と呼ばれる15分間の授業が公開されました。3年生は最初の3分間、立ってモニター画面を見ながらテンポよく詩や短文、ことわざ、百人一首などを全員で声を合わせ、メリハリをつけて音読します。次の3分間は一転して机に向かい、余りの出る割り算30問に挑戦。続いて先生が暗算のカードを次々に示し、1人ずつ瞬時に答えていきます。「発散と集中」を交互におこなう独自の方式で、15分間はあっという間に過ぎていきます。

5年生の「英語モジュール」でも、「動と静」が交互に取り入れられていました。どちらの教室も、児童たちはみな笑顔で、やる気に満ちていたのが印象的でした。

2校時は6年生の英語の授業を参観。北相木村の好きなどころやほしいものなどを英会話で伝え合い、「夢の北相木マップ」の作成を試みました。

この後、体育館でアトラクションがあり、20数人の児童たちが太鼓を持って沖縄のエイサーを披露しました。山村留学センターに沖縄出身の指導員がいて、伝統芸能活動のひとつとして取り組んでいるそうです。



④英語モジュールで英文を書く5年生

⑤北相木村について英語でグループトークする6年生

⑥エイサーを披露する北相木小の児童たち